

- ▶ 赤村は総面積の約7割が森林面積であるが、森林所有者の森林整備に関する関心が低いことや、担い手が不足していることが課題となっている。そのため、森林環境譲与税を活用し赤村防災マップに掲載されている土砂災害特別警戒区域内の里山林（住宅に隣接する山林など）の公益的機能の維持、向上、回復を図るとともに倒木、土砂災害等による災害を軽減する目的として里山林の除伐、除竹等の整備を進める方針。また、木材普及活動の一環として平成筑豊鉄道の駅舎の木質化も行っていく方針。
- ▶ 令和3年度は里山林の整備を要望した3地区について、里山林の整備に要した経費について補助を行い、住宅に隣接する里山林（0.2803ha）を整備した。また、平成筑豊鉄道油須原駅舎の木質化を行い、木材利用の関心を高めるとともに景観や利用率の向上に努めた。

□ 事業内容

(1)土砂災害警戒区域内における里山林整備事業の実施

【事業費】3,522千円

（全額譲与税。インストラクター報償費33千円を含む。）

【実績】①面積 0.2803ha ②地区数 3地区

③里山林隣接者等（受益者世帯11世帯、23人）



（整備前の状況）



（整備後の状況）

(2)平成筑豊鉄道油須原駅舎の木質化

【事業費】2,200千円（全額譲与税）



（木質化事業後の駅舎）

□ 工夫・留意した点

- (1)の事業については、整備の優先順位の決定に際し、森林インストラクターの意見等基準を設けるとともに、里山林整備計画を示し、整備内容に対しイメージの共有を図ることで、整備後に問題が発生しないようきめ細やかに協議を重ねた。
- (2)の事業については、鉄道会社、西日本工業大学と協議を行い、地域交流の拠点となるような駅舎の木質化に取り組んだ。

□ 譲与額の使途状況

①令和3年度当初基金積立額	2,245千円
②令和3年度譲与額	3,547千円
③令和3年度事業費	5,722千円
④令和3年度末時点積立総額	70千円

□ 積立の目的

令和4年度も引き続き里山林整備事業や駅舎の木質化事業を行っていくため、その事業費に使用する予定。